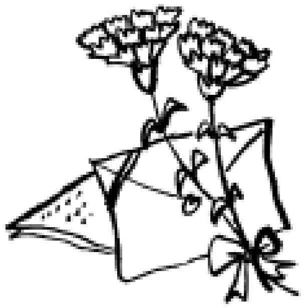
皐月

臥莫（たびれ）て宿かる比（ころ）や藤の花
芭蕉

藤の一種、ノダフジの学名は、太閤秀吉が藤見をした大阪の藤の名所、野田に由来する由。そのノダフジはヤマフジより花の房が長く、ヤマフジが下から見上げると右巻きに木に巻きつくのに対し、ノダフジは左巻きだそうだ。藤見に出かけたら、右巻きか、左巻きか、確かめてみるのも楽しいかも知れない。
芭蕉の句は、春の大和路を歩き疲れて、どこか宿はないかと思う夕暮れ時に、ふと、だらりと垂れた藤の花房が目に入った、という気分の句。歴史への回顧、旅愁と春愁。

藤房の揺れが止まればまた独り
三好　潤子

さわやかな五月の風がふと止み、揺れていた花房がひっそりと垂れている。あたりは静か、胸に迫る春愁。



戦国策

大リーグで一〇〇勝した野茂の凄いところは、日本での栄光にしがみつくこともなく、孤独を恐れず、わが道を貫いていることだ。それに較べ「〇〇軍団」などと言われるものに所属する若手ゴルフ選手が一向に頭角を現わさないのは何故か。
いったん師弟関係ができ上ってしまうと、なかなか師の影を踏み越えることが難しくなるからではないか。

□データ　1～3頁
　＊百貨店3月売上高3.7%減　スーパー2%減
　　九州百貨店3月売上高3ヵ月ぶり前年割れ
　＊ベスト電器経常益45倍に　提携商品増が貢献
　＊パソコン出荷額昨年度　最低の1兆6000億円

□九州・山口　4～8頁
　＊岩田屋が過去最高益　地場百貨店2月期決算
　　小倉伊勢丹「来年2月開業」
　＊世界の扉新しく　国際情報コーナー移転　ＡＩＭ
　＊名人は若女将ただ一人　新酒きき酒会
　＊トキハ大分店改装　3ヵ年計画　別府店はＳＣに転換
　＊湯布院　空港直結所要時間半分に　大分交通など

□住まいの情報　9頁
　＊日本初の「ねこマンション」都内に来年誕生

□カー情報　10～12頁
　＊12年ぶりの300万台　日産、強気の今期目標
　＊観音開きスポーツ車　マツダ「ＲＸ－８」発表
　＊ガソリン車上回る加速　トヨタ、新型ハイブリッド

□外食産業　13～16頁
　＊全従業員にマスク　通勤時の着用要請　クリーズ
　＊マクドナルドメニュー続々　商品マンネリ打開策
　＊今が売れどき　小魚菓子「焼きうるめ」日生協
　＊塩辛メニュー充実のバー　大人の男性、お酒と楽しむ

□人　ひと　17頁
　＊企画力で攻めの営業
　　ＴＯＴＯ次期社長　木瀬　照雄　氏

□売れ筋　18～19頁
　＊人気商品・新製品

□話題　20～24頁
　＊ビーチ専用　砂上の広告　字・ロゴくっきり
　＊末は“博士”でノーベル賞　女子は食べ物屋さん
　＊Ｈｏｗｔｏ商い　周囲を観察せよ　客の目線で見直す
　＊速く乾くジーンズ室内干しのニオイ抑える　ヨーカ堂
　＊50円均一コーナー展開　若者から主婦層に顧客拡大
　　ドン・キホーテ　中村　俊雅さん

□ネットビジネス　25頁
　＊チラシを画面に　製作コストを削減　ＮＥＣ

□ユニークな店舗訪問　26頁
　＊形成外科医を招き高級エステ　アンデュマリ

□データ　27頁
　＊全国スーパー3月販売実績
　　携帯通話「高～い」85%が悲鳴

□ホームページ　28頁
　＊チラシ調査で見えたもの　他

チラシ調査で見えたもの

毎日チラシを見る消費者（既婚女性）は７０％以上

何気なく見ているテレビ広告は、商品のイメージアップを醸成するものだが、折込チラシは、売出し時の動員に対して効果を発揮する。テレビとチラシでは、それぞれのもつ媒体特性があるため、使い分けが必要で、テレビで補足できない商品情報を伝えるにはチラシが効果的となる。

テレビとチラシの違いを見ると、テレビ広告は自ら進んで見るものではなく、無意識のうちに目に触れ、浸透する特徴がある。それに対して折込チラシは、消費者が興味を抱いて意識的に見なければ目に触れないものである。

調査によると、毎日必要なものを抜き出して、チラシを見るという消費者は６割を占め、中でも既婚女性だけに絞ると、7 割以上といった高い数字になり、いかに生活に溶け込んでいるかがわかる。

消費者のチラシ調査の中で、ここまで見ているのか、と驚かされたことがあった。

① チラシ全体を見た後、四隅の拡大スペースの大きい商品は必ずチェックする。そこはその店では特に安い商品が並んでいることが多いことを経験から学んでいるのである。
② 目玉商品の隣には目玉はない、とまで言い切る主婦がいた。例えば、特売のソーメンがあったとして、その横にある「つゆ」はあまり安くないという。つまり、他店と比較して安い商品だけに目を止め、そうでない商品は飛ばして見る傾向が強い。
③ セールの前日と終了の翌日が狙い目だ。前日には入れ替え商品を処分するし、終了後には売れ残り商品の処分がある。

といったもので、消費者の目に思わずドキリとさせられるが、かなり細かなところまで目を通しているため、つくり手はこれらを分析してさらなる工夫を凝らす必要がある。

【堀内敬一著『折込チラシの絶対法則』より】

知っておきたい諺あれこれ

諺は生活から生まれた〝人生の知恵〟といわれます。しかし、ときにはその意味を間違って聞いていたとか、間違ったまま使っていた、なんて失敗ありませんか。

得手に帆を揚げる

好機到来を充分に利用する

一目散に逃げること

船が帆を上げるのは風向きがよくなったときだ。得意な分野で、しかも絶好のタイミングが訪れたとき、そのチャンスを充分に利用することをいう。一目散に逃げるのは「尻に帆を掛ける」だから正解は　。

・幸運の神がノックしたら、すかさずドアを開けろ
・西洋の諺。

ミニ情報編集子

おどろきつぶやき

昨年の９月、10 年間就いていた経理の仕事から、マーケティング課に転属になりました。パソコンでのデータ入力やマップシステムの操作は出来ても、マーケティングというのはとても奥が深く８ヶ月経った今でも知らないこと・分からないこともあり、仕事をする中で勉強の毎日です。そんな私の提出した資料でも、営業担当者からお客様にとても喜んで頂いたという報告を受けると本当に嬉しく、『もっと、もっと自分のスキルを高め、より良いものを作成し、お役に立てるようがんばろう！』と励みになります。

市場(現地)調査を行い、様々なデータをあらゆる分野から収集し、分かり易く・内容ある、お客様のニーズに十分にかなった資料を提出できるよう、日々努力を怠らず邁進していきたいと思います。

『お客様に喜んでいただく』ことを第一目標に！！

北九州本部　田實　美代子

◆ 新聞休刊日（予定）のお知らせ ◆

５月以降の新聞休刊日・折込出来ない日（予定）は下記の通りです。なお都合により変更となる場合もありますのでご注意下さいますようお願い申し上げます。

6/ 9（月）　7/14（月）　8/11（月）　9/16（火）　10/14（火）　12/15（月）
※11 月は休刊日がありません。

セルフサービス・・・回転ずし

朝は五時に、どうかするともっと早く目が覚める。本を読む気にもならずグズグズしながら新聞配達のバイクの音を待って取りに出る。読んでいるうちにお茶が飲みたくなるからまた起きて台所まで行って自分で淹れたコーヒーをベッドで飲む。何時からこうなったのか、考えてみると他にもいろいろと昔は家内がしてくれていたことをいまでは自分でやっていることに気づく。

子供のころ、よく親から自分のことは自分でやれ、と言われたものだが、この年齢（とし）になってそれを実行しているのかと思うと可笑しくなるが、いまや世の中セルフサービスの時代だから致し方あるまい。

セルフサービスとは、食堂やマーケットなどで、客が自分自信で商品を選んで運ぶなど、店員の仕事を客が負担して代金の受領だけを店員が行なう方式（大辞泉）のことだそうだ。マーケット、即ちスーパーやコンビニ、ホームセンターなどではもうそれが当たり前になっているから気にもならないが、食堂、食事をするとなると少し違ってくるようだ。

高松（四国）に旅行したときタクシーの運転手から「ウドン食うたか、ここのウドンは美味いど、セルフじゃ、セルフが美味いど」と自慢されなんのことか分からなかったが、あとで自分でウドンを茹でて好きな具を入れる、あのことと気づいた。一度食べたことはあるが上手くいかなかったから以来入ったことがない。

本屋のあるビルには安くて美味いパスタの店がある。パスタとスープは運んでくれるがパンと飲みものは自分で運び、水やチーズも自分で取りに行かなければならないし、食べ終った食器を戻すときにはトレーは二枚、グラスや皿もいくつかになっているから、落としたら大変だとオロオロする。だから残念ながら一人では行かない。

ツアーで旅行するとホテルの朝食は殆んどがバイキング、夕食もメインディッシュの他はバイキングというのが多い。

好きな料理を好きなだけご自由に、というのだから結構な話だが、男子厨房に入らず時代の男には皿を手にしてのウロウロには抵抗がある。しかし女性、じゃなくてわが家内、娘となるとこのときとばかりに詰め込む。アー苦しい、と言いながらまた立って行く。更に大量の、デザート、ケーキに飲みものまで平らげると、もう駄目と腹を叩いて天井を仰ぐ、正に鼓腹撃壌である。そして家に帰ると今日から減量だと生野菜しか刻まない。バイキングというのは女性のためのものらしい。

回転ずしは皿を持ってウロウロも、食器を戻しにも行かなくていい代りに目が廻る。

私の義姉は九十才に近いが、現在（いま）でも一人で図書館に行くほど元気だし好奇心も旺盛だ。

数年前、その義姉が家の近くに廻転ずしが開店したと聞いて早速出かけたのはよかったのだが、さて食べ終って店を出ようとしたレヂでハプニングが起った。

なんと昔気質の彼女は、食べ終わった皿を、あのテーブルが廻ってくるのを待って丁寧に元のところに戻していたのだった。

貝瑲吉